

植調協会だより

◎ 会議日程のお知らせ

- ・平成22年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稻
刈跡）除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会

日時：平成23年9月8日(木) 10:00～17:00

場所：浅草ビューホテル

〒111-8765

東京都台東区西浅草 3-17-1

TEL 03-3847-1111

「話のたねのテーブル」より

ケニアのバオバブ(*Adansonia digitata* L.)

鈴木邦彦

バオバブは幹の直径が4～5m, 大きなものでは10mに達するものもあり, 乾期の葉がないシーズンには, 逆さまに突き挿され, 根が剥き出しになったように見える。

バオバブはアフリカのサバンナに住む人びとの生活と深く結びついている。果実は長さ30～35cm, 直径15cm程度で, 内部には曲玉のようなたくさんの種子がある。その周囲に白色で粉質の果肉がある。果肉はビタミンCを多く含むといわれ, 甘酸っぱく, 駄菓子のような味が生きておいしい。種子も軽く炒ったり煮て食べるが, 脂肪が多く, ナッツとしてもおいしい。

葉は複葉で, 5枚の小葉が掌を拡げたような形をしている。若い葉は野菜としても利用される。厚い樹皮は軟らかく, 内部には繊維が厚く重なっており, 剥

ぎ取って叩くと繊維を取り出すことができる。これでロープやバッグを編むなどして利用される。

ケニアの首都ナイロビに滞在した折, インド洋に面するマリンディまで旅したことがある。標高1600mのナイロビを出発して国道を南東に向かい, 海拔0mのモンバサに向けて車を飛ばす。標高1200m程度まで下ると象の群れによく会えるというツァボ国立公園が広がる。その辺りからバオバブが灌木の中に抜きん出た樹冠を拡げているのが目に付き始める。モンバサから, 海岸沿いに北東方向に走ると,

マリンディまでの内陸側に広大なサイザル畑が広がり, その中に葉を付けた壮大なバオバブ樹の姿が見られる。
(話のたねのテーブル No.138 より転載)



▲マリンディ近郊のサイザル畑脇の大本

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成23年8月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第45巻第5号

(送料270円)

印刷所

(有)ネットワン